

## JFA 第 43 回全日本 U-12 サッカー選手権大会における「地域育成インストラクター研修会」報告

岡山県 F A 赤木寛子  
山口県 F A 杉山 崇

場 所 白波スタジアム（陸上競技場），ふれあいスポーツランド，鹿児島県緑地競技場

日 程 2019 年 12 月 24 日（火）～29 日（日）

研修目的 1 審判員・・・「出し切る」

2 指導者・・・「引き出す」

参加者 U-18 審判員 31 名【中国地域 島根県：安食拓海，岡山県：中島巧実，山口県：稲木優希】  
JFA スタッフ 15 名【審判委員長：小川佳実，チーフ：高橋武良，RDO：江角直樹 他】  
地域 INS 16 名【中国地域：赤木寛子（岡山県）、杉山 崇（山口県）他、北海道 2 名，  
東北 2 名，関東 4 名，北信越 2 名，東海 1 名，関西 1 名，四国 1 名，九州 1 名】  
合計 62 名



### 【活動内容】

12/24（火）＜研修 1 日目＞

（講義 1）大会・研修会について【高橋武良チーフ】

研修テーマの提示 全体テーマ：「大会を成功させる」

U-18 審判員：「出し切る」

地域 INS：「引き出す」

(講義 2) アイスブレイク・大会成功の要因【泉弘紀 INS】

泉氏よりアイスブレイクでまずはグループに分かれ、自己紹介とそれぞれのキャッチフレーズをリーダー選出し発表。その後、大会成功の要因として審判員と指導者の意見を出してもらい検討した。審判員と顔合わせもありお互い緊張した中楽しめました。



(講義 3) 審判員のみ

(講義 4) チューターリング【羽矢吉克 INS】

羽矢氏より講義。(修造ゲーム)

指導者のためのアイスブレイクで皆さんまじめに取り組みました。

12/25 (水) <研修 2 日目>

《鹿児島県緑地球技場》

(実技 1) フィジカルトレーニング【坂本隆史 PC、後藤朋巳 PC】

審判員に対してウォーミングアップからランニングフォーム、加速力、アジリティなど翌日からの試合に必要なトレーニングを実施。



(実技 2) プラクティカルトレーニング

フィジカルトレーニング中、担当 INS からデモのレクチャーを受け、1人制審判に必要な要素について、フィールドを3分割してプラクティカルトレーニングを行いました。

最初からうまくはいかなかったが、20分の中で審判員へプラクティカル的重要性を感じながら指導

者も審判員の気持ちになりながら熱が入っていました。

①「オフサイドを正確に判断するために」【倉原英弘 INS】

②「展開にあわせて動くための準備」【酒井昭宏 INS】

③「正確に見極めるためのポジション」【江角直樹 INS】

《鹿児島市民文化ホール・鹿児島市民会館》

※昼食後：プラクティカルトレーニングの振り返り【伊藤力喜雄 INS】

①「オフサイドを正確に判断するために」【倉原英弘 INS】

- ・視野の確保、オフサイドが起こる場所（フィールド中央、手前）で視野の違いを感じさせる。
- ・オフサイドの基本を確認するため、まず AR におけるオフサイドの見極めをさせた後、R ポジションでオフサイドの見極めをさせる。
- ・1人審判法だとオフサイドの見極めは難しいので、より良いポジションを取る意識をつけさせる。

**改善点【名木 INS】**

回数を増やせれば良かった。やり方の工夫。寒い時間帯もあったのでウェアの配慮も必要。  
R サイドと AR サイドに分けて同時に判定させても良かった。

②「展開にあわせて動くための準備」【酒井昭宏 INS】

- ・どんな情報を収集し、それをどう活かすか。
- ・対角線式審判法をリセットさせた。

**改善点【泉 INS】**

説明に時間が取られている。共有事項を全体に明確にした方が良い。回転数の工夫が必要。

③「正確に見極めるためのポジション」【江角直樹 INS】

- ・ゴール前を見極めを正しく行う。
- ・何を見てポジション取りをするのか。
- ・事象がどこで起きているか、流れを考えているか。

**改善点【羽矢 INS】**

2人Rでやらせても良い。回数の確保、リアリティー。

デモをする際に、スキルの有無でレベルを合わせるのも良い。

(講義5) 審判員のみ

(講義6) 指導者として審判員とどう関わるか【山崎裕彦 INS】

担当審判員 (U-18 審判員)                      サポート指導者 (地域育成担当)

『出し切る』

『引き出す』

『引き出す』とは

「何を？」・・・「課題」「審判員の力」「答え」「改善方法」「能力」

「パフォーマンス」「取り組もうとしたこと」「目標」

『引き出す』

⇒どのように？      考えさせて→「質問」

↓

気づかせる→「どう考えたのか」

答えは審判員の中にある ⇒どのように聞くか？

↓

- ・絞った質問 ・もしもシリーズ
- ・どう考え、どう行動したか
- ・できたことも、どうしてできたのか？

次への意欲につなげる

どうしたら話すか？ == 信頼関係構築

- ・目標の明確化 ・背中を押す

どう構築するか？ - コンピテンシー = 行動特性に「気づく」

※演習：審判員の悩みを引き出す

- ・2人一組になって実際に最近良かったことを聞き出す。
- ・指導者役と審判員役に分かれ審判員の悩みを聞き出す。このとき話をする場所、体の向きを考えた座り方をする。

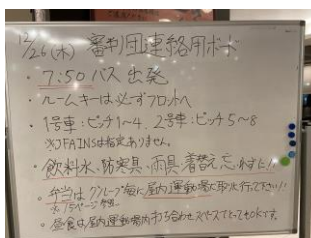
### 【グループ活動①】

- ・グループ別に分かれ翌日からの活動について確認と各自己紹介。

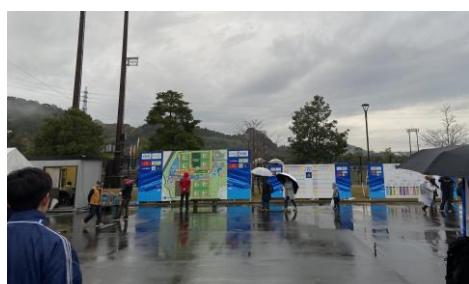
※審判員ーリスpektワークショップ

※指導員ーユニフォーム調整

(講義 7) (山崎裕彦 INS)



12/26 (木) <研修 3日目>



(審判員実技指導) 大会 1次ラウンド<<ふれあいスポーツランド>>

- ・ピッチ 3 U18 審判員 4名 (東北、東海、関西、九州)、地域 INS (関東、杉山)
  - ・ピッチ 7 U18 審判員 4名 (北海道、関東、関西、九州)、地域 INS (四国、赤木)
- 1次ラウンド第1戦、第2戦の6試合が行われた。天候は寒く雨模様。  
フィードバックはグラウンドで15分以内に行うよう指示あり。  
(試合終了後、40分以内には終わるように)

適宜、JFA INS からサポートしていただく。

各試合においてウェルフェアオフィサーが割当られており、技術の方と話ができる機会があり勉強になった。

#### 【グループ活動②】

- ・試合後のフィードバックを行い、審判員指導レポート（google フォーム）を入力した。
- ・審判員に指導を行った内容（審判員自身がどんな話をしていたか）を、google フォームへ入力する。
- ・事前 web 会議の通り「評価」ではありません。
- ・1～5 までの項目になっていますが、1～3 は試合結果等の基本情報の入力。
- ・記述が必要なのは4、5 です。
- ・4、5 はそれぞれ箇条書きでなるべく短い言葉で入力する。
  - ※4 は「4-1～4-4」までの4つ、5 は総評です。
  - 4-1.主審からの振り返り
    - ⇒主審が自ら話をした、○良くできていた点、●上手くできなかった点を1つずつ。
  - 4-2.主審が、次の試合に向けて取り組むと決めたこと
    - ⇒主審自身に取り組もうと決めたことを優先順位順に最大2つ。
  - 4-3.次の試合のために、主審として準備（トレーニング）した（する）こと
    - ⇒準備をした（する）内容を最大2つ
  - 4-4.主審が4-2 と4-3 を実践するにあたって、指導者としてサポートしたこと
    - ⇒指導者としてサポートした内容を最大3つ

#### 5 総評（感想など）

（講義 8）技術と審判との協調（JFA 技術 城氏）



- ・タフで逞しい選手の育成
- ・世界のサッカーの潮流・・・Intensity（play の強度）& Quality
- ・ディスカッション1

スピーディー フェア タフ

Q：指導者・審判がすべきことは何か

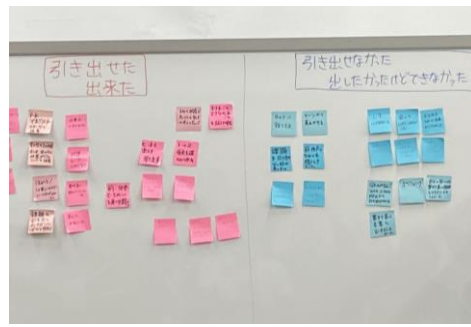


(グループ内割当確認等)

- ・地域 INS にて 1 次ラウンド第 3 戦・フレンドリーマッチ・ラウンド 16 の審判割当を行う。

(講義 9) Meeting 明日のために、勝つために【名木利幸 INS】

(講義 10) 「引き出したこと」「引き出せなかったこと」



- ・グループに分かれ、グループで「引き出したこと」「引き出せなかったこと、出したかったができなかったこと」を付せんに書き全員で共有した。

12/27 (金)

(審判員実技指導) 大会 1 次ラウンド、フレンドリーマッチ、ラウンド 16《ふれあいスポーツランド》

昨日と同様に指導とアドバイスをしました。天候は風が強かったが昨日とは変わり晴天。

### 【グループ活動③】

- ・試合後のフィードバックを行い、審判員指導レポート (google フォーム) を入力した。



(講義 11) 何のために審判をするのか【小川佳実委員長】

- ・「公平・公正さ」競技規則の重要なところ。「審判は常に選手のために、そして、目の前の試合を一生懸命に取り組む」審判員、指導者に対し、委員長より激励を含め再確認した。

(講義 12) 振り返りについて【江角直樹 INS】

ストーリーを思い描く⇒いつから考え出すか？

- ・前半終わりから
- ・HT から
- ・後半に入って

ストーリーを作成

- ・良かった点から入る
- ・褒めることから入ると信頼が生まれる
- ・事象についての原因
- ・ねぎらいから入る
- ・最後に改善点を考えさせる
- ・判定したことは認める (賛同できないが)

※問いかけの工夫：ポジティブワードで！

12/28 (土) <研修 5 日目>

朝食前に準々決勝、準決勝の割り当てがあり緊張した朝になった。割り当てのない審判員はマクドナルドフレンドリーカップの割り当ても併せて発表された。

(審判員実技指導) マクドナルドフレンドリーカップ 《ふれあいスポーツランド》

昨年とは違いカップ戦になったため、チームは予選リーグと同様、接戦したゲームになった。

PK 戦に突入する緊迫した試合で、審判員も上位チーム戦と変わらない緊張感で実践。

審判員も実践 3 日目となり 1 人審判法が理解でき、動き、判定にも成果が現れた。

(見学研修) 《鴨池陸上競技場》 準決勝戦

柏レイソル U-12 (千葉) vs ベガルタ仙台ジュニア (宮城)

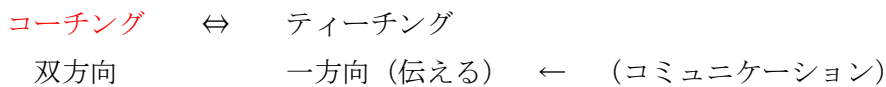
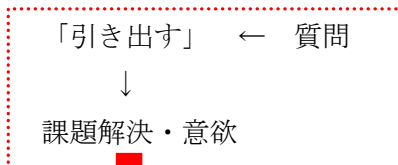
バディーSC (神奈川) vs センアーノ神戸ジュニア (兵庫)



(講義 13) 審判員のみ

(講義 14) 指導者として審判員とどう関わるか まとめ【山崎裕彦 INS】

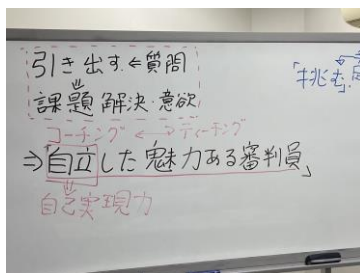
まとめ 「引き出す」とは



(見出す審判員像)

⇒ 自立した魅力ある審判員

自己表現力 ・ 自分がやりたいことを ・ 自分で見つけ ・ 自分でどんどんやっていく



## (懇親会)

全員が参加して懇親会があった。各地域で出し物（紹介・自慢）があり、最終日を前に和やかなひとときであった。

最後に決勝戦の割り当て発表があり、担当審判員の挨拶・決意を聞き、明日で最終日を迎えるにあたり再度緊張した中、会を終えた。



## 12/29 (日) <研修 6 日目>

(見学研修) 《白波スタジアム》 決勝戦

柏レイソル U-12 (千葉) vs バディー SC (神奈川)

主審：白拍子祐介 (鹿児島)、補助審：猿田凌久 (北海道)



## 【まとめ・所感】

この度は、JFA 第 43 回全日本 U-12 サッカー選手権大会に地域 INS として参加させていただきありがとうございました。全国のユース審判員、地域インストラクター、JFA の方々、九州・鹿児島審判委員会の皆様、大会関係者の皆様、出場チームの方々のおかげで最高の 6 日間を過ごすことができました。事前の web 会議から鹿児島に行くまでは不安な気持ちに負けそうで、ユース審判員のサポートが務まるだろうかと気が焦っていました。しかし、江角 RDO と杉山さんと同じ新幹線だったこともあり、集合場所に向かう途中からは、これから始まる大会を楽しもう！できることをがんばろう！と笑顔でユース審判員に接することを心がけようと気持ちの切り替えができました。プラクティカルトレーニングは回を重ねるうちに改善され、行いながら修正して行けば良いこと、地域インストラクターで参加されている方々の積極的な姿勢、ユース審判員の真剣に取り組む姿等、とても勉強になりました。私はインストラクターとしては、まだまだ未熟のため「引き出す」ための問かけが難しく、正直、今回どれだけユース審判員から引き出すことができたのか、また、サポ



ートが出来たかわかりません。しかし、同じグループだったユース審判員の試合毎に成長していく姿を近くで見守れたこと、また、大会終了時に「ピッチ7で本当に良かったです！」と笑顔で握手できたこと等、これからインストラクターとして活動していく上での糧となりました。ピッチ7グループの2人が決勝の割当てをいただき、スタンドから観戦できた際は、躍動する姿に涙が溢れました。今大会に参加させていただけたことは、私のサッカー人生において、とても貴重な経験となりました。中国 FA、岡山県 FA の関係者の方々に感謝申し上げます。今後も「引き出す」ことを意識し、学んだことを地域でも活かしていくべく日々心掛けていきます。ありがとうございました。また、このような機会がありましたら、是非参加させていただきたいです。

赤木寛子

長期にわたる研修会が初めてで、緊張と不安な気持ちでしたが、事前に2回の Web 会議で顔が見え、声が聞けたことで少し不安が消え鹿児島へ到着しました。地域 INS の方と対面したときは知っている顔と思いながら気が楽になりました。今回の指導者のテーマ「引き出す」ということで、聞くことに徹することを自分に言い聞かせて研修を受講しました。いざ、研修でデモをすると、つい指導や答えを出している自分がいました。なかなか人の話を聞くということが難しいのかを痛感させられました。実践では、審判員へのサポートとアドバイス。今回のテーマを意識しながら指導実践しました。やはり引き出すより、アドバイスをしてしまう場面があり、指導途中で何度か唾を飲み込みました。審判員の思いや言いたいことを聞くことを意識しながら審判員と接しました。初日より2日目、2日目より3日目と徐々に「引き出す」ということのヒントを得ました。短期ではありますが、この6日間、充実した研修で、高橋チーフをはじめ、JFAINS の方々のわかりやすい講義で新鮮さと、これからの実践に必要なスキルを得られました。全国の U-18 審判員のレベルの高さ、将来性を感じ、指導者の力も必要だと実感しました。これから地域でもこの経験を活かし、審判員へ還元していきたいと思います。なかなかこのような全国レベルの大会に参加できることがなく貴重な体験でした。JFA 審判部スタッフ、JFAINS の方々および各地域 INS の方々に出会えたことに感謝しております。また機会がありましたら参加させていただきたいと思います。最後にこの研修会に参加させていただいた中国 FA、山口県 FA の皆様に感謝申し上げます。

杉山 崇

